

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300445		
法人名	株式会社 アクタガワ		
事業所名	ハートフルホーム厚原 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県 富士市 厚原179番地1		
自己評価作成日	平成29年1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kounyuu_detail_2016_022_kani=true&amp;lievsvocd=2292300445">http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kounyuu_detail_2016_022_kani=true&amp;lievsvocd=2292300445-</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハートフルホーム厚原は平成26年5月にオープンした施設です。1階がグループホーム1ユニットと隣に小規模多機能型居宅介護が併設になっています。  
施設の周りには茶畑や田んぼがあり、富士山もみえる環境にあるため、散歩をする際はお客様が季節を感じる事ができます。  
また、近所のお家の方とも交流が有り、金魚を見に行かせてもらっています。  
鷹岡地区の町内会に入っており、地域のお祭りや防災訓練にも職員とお客様一緒に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アイコンタクトと笑顔の挨拶に併せて、諸所丁寧な振る舞い、言葉遣いが好印象の事業所です。朝礼のとき理念とともに「接客六大用語」を唱和して日々意識を持続させるほか、本年度から見守りカメラが設置され、利用者の安全を図る一方で職員の立居振舞にも着目し、「ニコニコテキパキ賞」を法人が準備しています。さらに法人本部の教育チームが3~4ヶ月毎に30分程度時間をとり、マンツーマンで接遇指導にあたっている点も下支えとなっています。また昨年、本年と地域の防災訓練にも加わり、利用者自ら消化作業をおこない喝采を浴びたり、体育祭、どんど焼き等地域へ積極的に出向くよう推進する管理者が23歳という若さにも感心

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として会社の経営理念を1階事業所に掲げ職員で共有しており、1か月に1回のチーム会議を行う前に、職員全員で経営理念の唱和を行っています。	「福祉による地域コミュニティを～」では、民生委員の自庭の池を訪ね鯉を眺める散歩コースもでき、子ども会の役員だった職員が事業所祭りに児童を呼び込んでくれたりと、日々実践が進んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入り、地域のお祭りや防災訓練に参加し、準備のお手伝いを行ったり、回覧板をご近所へお届けする等、地域の一員として役割意識の持てるような機会を設けています。	四半期毎の、家族と協働でのアルミ缶回収は3年目となり、定着しています。ボランティアもオカリナが加わり、事業所のふれあい祭りではたこ焼きや鯛焼きの屋台を専門家に依頼して来訪数も前年より増えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を「アクタガワの日」として制定し、地域貢献の一環として近隣を清掃しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しています。その場では入居者情報をお伝えしたり、活動報告をしています。御家族や町内会長、市役所職員や地域包括の職員のご意見やご要望を伺って、活動に活かしています。	隔月開催に家族の半数が参加するという状況にあり、意見も活発です。玄関に職員の写真と名前を置き、本日の勤務者に印をつける取組みは、本会議での家族意見からのもので、有意義な時間であることが覗えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市役所の方と地域包括の方が交互に出席して下さっています。そこで情報の共有を図っています。	運営推進会議にも足を運んでくださり、先々月の実地指導でも働き方について配慮ある助言をもらっています。また介護相談員制度を利用し、「昔こんなことしてた」と何気ない会話を愉しむ時間が叶っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない様、会議の際に職員に周知・徹底させています。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねています。	虐待についての自己チェックを定期的におこない、年間研修に本件も組込まれ、やむを得ない場合に使用する書面や推進方法も職員は理解出来ています。ストレスや悩みが蔓延させないよう、職員の変化には注視して「都度面談」を旨としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しています。職員は3ヶ月に1回虐待防止自己チェックリストを管理者に提出し、常に注意して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けています。そしてご理解・ご了承を頂いてから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に開催している運営推進会議や年2回の家族会・お客様アンケートを通じてご意見をいただき、検討に努めています。	家族との連絡にはeメールも取入れ、「厚原通信」も毎月届けています。法人主導のアンケート実施もあり、また運営推進会議の出席率が高いことから、要望、意見は集まっており、速やかに是正しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や業務の際に職員の意見や考えを確認したり、個別面談を行って話を聴き、反映させています。	「洗濯物の取り違いがないように」との議案では、籠の導入等作業効率を上げての内容から利用者本人の有用感の醸成にまで及ぶ例をはじめ、2時間の予定が1時間強となってしまうことも間々あります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに個人目標を設定し、上半期・下半期に評価面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修にも参加しています。加えて今年からマナー研修を個別に実施しています。そしてこれらの研修で培った経験を参加出来なかった職員にも伝えていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や富士市グループホーム連絡会に参加し、交流が図れています。また、年に1回グループホームの交流会にも参加し、28年には他の事業所のグループホームに職員とお客様が伺いし、一緒に体操を行ったりして交流できました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にご本人、ご家族様、ケアマネジャー、医師に聴き取りを行い、その人らしい暮らしが入居後も出来るよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族と話し、悩みや要望、相談について伺っております。入居後は、お客様の事業所での様子等について情報共有をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供できるサービスをお伝えし、その中からお客様・ご家族様の希望するサービスをしっかり把握して情報提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に出来る家事等はお手伝いして頂いています。また、お客様同士と一緒に楽しめるようなレクリエーションを考え提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の生活歴をお聞きしたり、事業所での日中のご様子をお伝えしたりしています。また、お客様の写真の入ったプリントをお渡しすることで、ご家族とお客様との会話のきっかけを提供しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様だけでなく、ご家族やお知り合いの方も参加できるお祭りを年に1回開催している。	知人、友人、家族ほか、以前此处に勤務していた職員が子ども連れで立ち寄ることもあります。「女3人姉妹」と自らを呼ぶグループは編み物を仲良く続け、男性利用者がハーモニカを披露くださることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で協力して家事や体操、レクリエーションに取り組んでいただくことで会話のきっかけを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何か相談事がある際には親身になって対応しています。また、施設でのイベント等の際には、お誘いしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と向き合い、お話を傾聴することで、ご本人の希望に寄り添う支援となるよう、努めています。	「担当」というリーダーを備え、「個別対応表」を核に介護支援専門員と担当とで支援方法を模索しています。手をよく動かすことに着眼し、以前やっていた茶摘み、茶揉みだということから、茶畑に行ってみたこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまで担当していたケアマネジャーから話を伺い、サービスにつなげる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や介護経過記録用紙、申し送りノートを活用し、常にお客様の現状の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を開催し、その中でお客様についてのカンファレンスを行っています。意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映できるよう努めています。	職員は毎日モニタリングに係るチェックシートに記録し、チーム会議内でのカンファレンスの合議も活気あるものですが、介護計画書の作成については介護支援専門員資格をもつ計画作成担当がおこなっています。	サービス担当者会議に家族が加わる機会が増えるよう、工夫があるとのおいしいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を有効活用し、チームで情報を共有しながら、アイデアを出し合っています。また、アイデアを元実践し、随時介護計画を見直すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1階の訪問理美容の手配、イベントの参加等といった取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方に挨拶をしたり、地域行事に参加したりと支援が行えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携医と連携を取っていますが、本人とご家族の要望により、先生を選択できるようにしています。また、ご家族の意向に合わせ、状況に応じて通院介助も行っています。	月2回訪問診療があり、緊急時には駆けつけてくださる協力医に7名が変更しています。専門医とかかりつけ医を継続する2名の通院介助については、基本家族が担当していますが、無理な時は事業所で代行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の体調が優れない時はすぐに主治医に連絡をし、指示をもらう等、連携を意識しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行い、その後の対応方法については主治医と相談して決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とそのご家族、訪問看護と連携をし、最期までその人らしい生活ができるように支援しています。	看取りをおこなう事業所として家族にも契約時に説明しています。「これでよかったのか」迷う職員も、通夜で家族に御礼を告げられたとき区切りがついたとのエピソードもあり、若い職員にとっては精神的にも負担が大きいものの、本年度も無事1名お見送りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを持ち、チーム内研修を通じて対応確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	脱出経路の確認や消火訓練等、施設にて防災訓練を行っています。また、地域の防災訓練にも参加しています。	消防署職員立ち合いの下、地震が起きて火災という設定でおこなった結果、「ドアは開けておく」「避難時間の短縮を」「備蓄は7日分に」といった貴重な助言を得ており、備蓄は既に実行に移しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇を確認したり、社内で個別のマナー研修を行っています。	朝礼のとき理念とともに「接客六大用語」を唱和して日々意識しています。また本年度から見守カメラが設置され、利用者の安全を確保する一方で職員の立居振舞にも着目し、ニコニコテキパキ賞の用意もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様におやつメニューの希望を聞いたり、レクリエーションの時間に何がやりたいかを尋ねたりしています。そして可能な限りご期待に添えるよう、努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お手伝いや体操、レクリエーションの参加は強制ではなく、自主参加にしています。お客様に予定を告げ、お客様の積極的な参加を促しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で使われていた私服を持って来ていただいています。また、着用する際はご本人様に何が着たいかお伺いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の能力に応じて、お米を研いでいただいたり、お味噌汁を作っていただいたりしています。また、食後の食器洗いと食器拭きもお願いしています。	メインの惣菜の他に小鉢が2つ付、バランスのとれたメニューが2階の厨房(委託の専門業者)から届き、事業所のキッチンではご飯と汁ものが調理されています。タイミングよく職員の合いの手も入り、和やかです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック表と水分量のチェック表を使って一日の食事・水分が適切なものになるよう支援しています。また、塩分制限の必要なお客様にも配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、声掛けと見守りを行うことにより、口腔ケアを徹底し、口腔内を清潔に保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄のパターンを把握し、定時にトイレ誘導を行っています。可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援しています。	歩行訓練の積み重ねにより、車いすだったのが腹筋もつき日中はオムツが外れた例もあります。トイレ内の洗面にソープや手拭きペーパーが並ぶ様子を「ごく普通の暮らし」が感じられ安堵を覚えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をまめにさせていただいたり、体操をしていただくことにより対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を強制するのではなく、ご本人が入りたくなるような声掛けを心掛けています。また、ご本人が入りたくない時には他の時間や曜日に振替を行っています。	週3日を目安として個々に曜日も決めています。希望があれば臨機応変に変更しています。個々に着替えの籠があり、中には用意するものを記載したカードを入れ、できる人には本人に衣類を揃えてもらっています。	湯を一人ひとり入れ替えていることもあり、浴剤は数種類用意して、選ぶ楽しみが加わるとなお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を尊重し、ご本人の落ち着いた服装と寝具にてお休みいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が生き生きと過ごせるよう、ご本人の趣味や特技を活かせる場(例:おやつレク)を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩やドライブにお連れして気分転換を図っています。また、ご家族と連携を行い、外出できる機会を増やし、その型の希望にそえるよう支援をしています。	好天日には皆で散歩することもあります。大抵は本人の意向でおこなっています。日向ぼっこや広見公園、夢庵での外食、田子の月でのおやつ等のミニドライブが時折あり、年次では岩本山の梅、スポーツ公園での桜の花見があります。	年次の外出計画が現在の春先2企画から、毎シーズン1企画以上となるとなお良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してはご家族様に当施設では管理できない旨をお伝えしています。ご家族に了承を得て、外出レク等で好きな物を買う機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に了承が得られた際には対応させて頂いております。お客様からご家族様と連絡をとりたいという要望があった際には、職員が取次ぎ対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心掛けています。	陽の光がふんだんに差し込む、ゆったり広いリビングでは体操もおこなえます。年2回床のワックスがけに業者が入っているほか、食事後毎に掃き掃除、目立つ箇所の雑巾がけが慣行され、大変清潔です。掃除好きな利用者が職員を手伝う日もあります。	総体的にデイサービスのフロアのようにです。暮らしの場といったインテリアが足されるとなお良いと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席を決める際、お客様の交友関係を配慮し、お客様が和気藹々と過ごせる配置となるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の使い慣れた家具や家族の写真等を取り入れ、ご本人がくつろげる空間となるよう配慮をしています。	衣類は持ち込みのチェストに保管し、予め備わるクローゼットを押し入れ代わりとし、自ら布団の上げ下ろしをする人もいます。使い慣れた鏡台とソファを置き、自宅さながらの雰囲気を出している居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所には色のついた印をつけてわかりやすくするようにして対応しています。		